

## 主要科目の特長・科目ごとの目標等

### ○人間総合学群

#### ・観光文化学類

##### 「観光学」

観光学は歴史の浅い学問でありながら、現代社会においてその重要性は増している。なぜならば、観光は人々の余暇活動の中心的な位置を占めており、今後観光の果たす役割はますます大きくなっていくと思われるからである。さらに、観光が国の経済や文化・国民の生活にもたらす効果も高まってきた。本授業では、観光学の基礎理論を中心に観光の新たな動きと現場での対応にも触れる。観光に関わる基本的なことを広く学び、観光産業分野で起きていることや課題について理解を深める。

##### 「ホスピタリティ概論」

現代のホスピタリティ産業は、観光業界はもちろん、医療、金融、エンターテインメント等、極めて視野の広い産業になっており、日本の経済と地域活性化に大きな影響力を持っている。本授業では、ホスピタリティの歴史、ホスピタリティとサービスなど、ホスピタリティを理解するための基礎知識を修得するとともに、ホスピタリティ産業を事例として紹介することで、現場視点でのホスピタリティ関連情報を理解する。学生は授業に参加することで、自分で考え、関連情報を正確に把握し、理論的に説明できる力を養う。

##### 「旅行業実務論」

旅行業は交通運輸業・宿泊業とともに観光を支える三大産業の一つと言われ、余暇時間の拡大や可処分所得の増大による旅行の大衆化に伴って、発展・拡大してきたが、インターネットやSNSの普及により、旅行業界を取り巻く環境は近年大きく変化している。こうした状況を踏まえながら、旅行業実務論では、旅行業の発展の歴史を概観するとともに、旅行業の仕事、旅行商品、販売形態、経営の現状など、実務面を中心に旅行業の基本を広く学び、旅行業の課題や業界の今後の方向性を考察する。

##### 「航空・空港業実務論」

グローバル化が進む中で、国際的な人的交流を支える航空業界の重要性は高まっており、飛行機による旅行や移動が日常化するに伴い、航空業界に求められる「ホスピタリティ」の質も高くなってきている。航空・空港業実務論では、日系の航空会社や日本の空港を中心に、航空・空港業の発展の歴史や企業組織・企業文化を紹介するとともに、航空会社の提供するサービスについて、キャビンアテンダントやグラウンドスタッフの実務を通じて学び、航空業界で働くために必要なマナーやホスピタリティ精神も身に付ける。

### 「インターンシップ実習」

サービス産業(リゾートホテル、ブライダル産業)のみならず、様々な分野でのホスピタリティサービスを、インターンシップを通じて体得し、社会人としての素養を育てるとともに、就職準備につなげていく。行政(県庁、市役所)や金融(証券会社等)も広い意味ではホスピタリティが必要な業種と言える。「ホスピタリティ概論」履修者を対象とし、ホスピタリティの必要な産業全般に亘って実施する。なお、この実習では、企業人としての「身だしなみ」「礼儀作法」「履歴書や礼状の書き方」等についても学習する。

### 「海外インターンシップ実習」

観光の中心的産業である旅行業・ホテル業の知識を深めるため、ホノルル(ハワイ)でのインターンシップ(実習)を実施し、併せて社会人としての素養を育てる。ハワイでの実習先としては「ワイキキビーチ・マリオットホテル」、旅行会社では「JTBホノルル支店」で実習すると共に、日本とハワイの文化交流イベントである「ホノルルフェスティバル」でのボランティアも経験する。また、事前学習として「東京マリオットホテル」見学やJTBでの「実用英語」のレクチャーも行われる。

### 「海外旅行研修」

海外旅行を行うに際して必要な渡航手続などの実務を学ぶとともに、研修旅行先である研修先について旅行事情の調査研究を行った後、現地への研修旅行を実施する。研修旅行では、体験を通じて講義内容の理解を深めるとともに、ホテル見学・旅行会社訪問などにより研修先の観光事情を幅広く学ぶ。また、研修先にある大学を訪問し、事前に授業で作成した「日本の文化やイベント」についてパワーポイントを使って紹介し、大学生との交流を深める。

### 「国内観光資源研究 A(東京・首都圏)」

東京、神奈川、千葉、埼玉、群馬、栃木、茨城、山梨からなる首都圏の観光資源を研究する。履修者が自身の出身地あるいは興味関心のある場所を選び、7グループに分かれて観光資源を調査・発表する。グループ学習を通じてリーダーシップや協調性などを身に付けることを目標として、授業は次のPDCAサイクル形式で行う。第1に企画会議(リーダーの選出、調査・発表者の選出など役割分担の決定、企画書の作成、企画会議)の開催、第2に質疑応答形式で合同発表会の開催、第3に合同発表会の反省点を洗い出して完成版の企画書を作成する。

### 「海外観光資源研究 B(ヨーロッパ2)」

海外観光資源研究シリーズの一つであるこの科目では、ヨーロッパの観光旅行先として人気のドイツの観光資源を紹介する。明治時代に日本に大きな影響を与えたドイツは、日本同様第二次世界大戦では敗北し、復興を果たした経済大国である。その歴史を振り返り、ドイツという国の理解を深め、豊かな観光資源を見てゆく。

#### 「旅行業務取扱管理者試験特講」

将来、旅行業で活躍しようとする学生、あるいは旅行業に興味を持つ学生を対象に、9月上旬に予定されている「国内旅行業務取扱管理者」資格取得の国家試験合格を目指して受験準備を行う。毎年国家試験の直前にこの集中講義を受ける事により、効果的な受験対応が出来る。国家試験では「旅行業法」「旅行業・運送・宿泊各約款」「旅行実務」から出題され、そのいずれも60点以上が合格点となっているので、バランスの良い学習が必要となる。

#### 「観光の英語」

観光の英語では、学生自身の海外旅行や国際的な観光業務に役立つ英語の運用能力を習得することを目的とし、観光英語検定3級レベルの到達を目標とする。具体的な能力としては、海外グループ旅行の自由行動の際に、英語を使って買い物をしたり、食事を頼んだりすることができ、訪日観光客に対し、簡単な道案内などができるようになることを目指す。ペアワークなどによる実際のシミュレーションを多く行い、自ら積極的にコミュニケーションする姿勢も養う。